

令和2年度 東松島市地域支え合い活動事例集



令和2年度 東松島市生活支援体制整備事業
社会福祉法人 東松島市社会福祉協議会

はじめに

「地域福祉」とは、地域の中で福祉課題を抱える住民の福祉課題解決を図るということに加えて、共に助け合い、気にかけて合いながら「暮らしやすい」地域社会にしていく事だと言えます。そんな「助け合い」「気に掛け合い」の活動については、市内の様々な場所でおこなわれています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、人と人が互いに距離を取り、接触する機会を減らすことが求められ、いきいき百歳体操やふれあいサロン等、地域福祉活動の休止や延期等を余儀なくされました。こうした状況は、閉じこもりによる高齢者のフレイルの進行、社会的孤立や精神的な健康への影響が懸念されています。一方、誰かを支えたり、支えられたりしていること、互いに他人を思いやることなど、誰かとつながっている事の大切さを再認識する機会となりました。

この令和2年度東松島市地域支え合い活動事例集では、「誰もが安心して笑顔で暮らせる「ささえあい」のまちづくり」に向けた地域活動や、今年度コロナ禍でも地域とのつながりを切らない活動事例を紹介しています。

紹介している活動は、生活支援コーディネーターが地域を訪問し収集した情報で、ボランティア活動や自治会活動を通じて、活動に参加される皆さんが、出来る事から少しずつ取り組んでいる事例となっており、令和2年度に社協だより(ふれあいねっと)で紹介した事例を掲載しています。是非皆様の地域でもご参考にしていただければ幸いです。

目 次

活動紹介

- ① 宮野森小学校児童へのマスク作りを通じた支え合い活動（野蒜地域）・・・ 1
- ② コロナ禍だからこそ、見守り訪問活動（矢本東関の内三地区）・・・ 2
- ③ クリスマス見守り訪問活動（赤井上区）・・・ 3
- ④ 千羽鶴プロジェクト（赤井柳区）・・・ 4
- ⑤ 地域課題について考える五味倉支え合い検討委員会（大曲五味倉地区）・・・ 5
- ⑥ 「困り事地域内で助け合い」 塩入シニアの会（塩入地区）・・・ 6
- 支え合いのまちづくりの必要性和生活支援体制整備事業・・・ 7～9

活動紹介

①宮野森小学校児童へのマスク作りを通じた支え合い活動（野蒜地域）



野蒜地域では、地域住民有志が集まり、宮野森小学校でマスク作りをしました。

住民による地域支え合い活動の仕組み作りを進めている野蒜地域協議体の中で、子ども用マスクが不足している事を耳にした一人が、「児童に手作りマスクをプレゼント出来ないか」と声をあげました。

ほとんどの人がミシンを持っておらず、学校へ家庭科室の空き時間に電動ミシンの利用を打診したところ快諾をもらい、家庭科室でのミシン作りが始まりました。

材料はメンバーが持ち寄り、作業に参加しているメンバーも、参加者同士で会話を楽しみながら、和やかな雰囲気楽しんで行った支え合い活動です。

宮野森小学校へは、１０８枚の子ども用マスクをメンバーで寄贈することが出来ました。

②コロナ禍だからこそ、見守り訪問活動（矢本東 関の内三地区）



関の内三地区では、コロナ禍でサロン活動を休止している状況です。

そんな中でも、つながりを切らない取り組みとして、地区自治会の有志が手土産を持って、地域の高齢者宅を訪問して、近況やコロナ禍での過ごし方などを聞いて歩きました。

訪問した先の方も、「コロナ禍だから、買い物もなるべく行かないように控えていて、人と会う機会も少ない。あまり外出する機会がないので、このように訪問してもらえると嬉しい。」等の話もありました。

訪問活動をおこなっている人達も、顔を合わせながら色々な話をして、楽しそうに活動されていました。

③クリスマス見守り訪問活動（赤井上区）

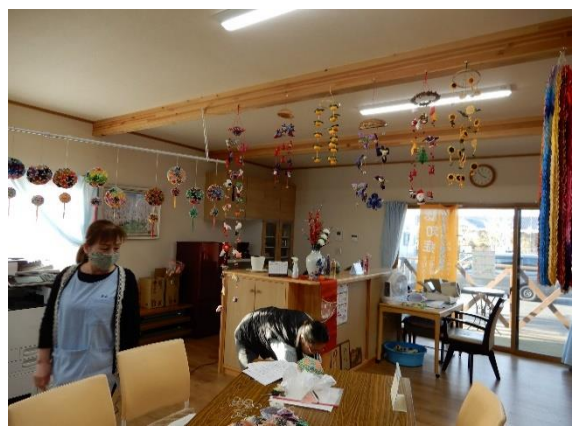


赤井上区では、例年クリスマス会を開催していましたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、クリスマス会は中止となりました。しかし、自治会で、「みんなで集まれないけど、地域の中での顔の見える関係を切らないようにしよう」と、自治会の4名がサンタクロースに扮し、全世帯を訪問しました。

サンタクロースは住民一人ひとりに「今年もお疲れさまでした。特にお変わりありませんか。」と声掛けをしながら、お話を楽しまれていました。

訪問された住民さんも、突然の訪問とクリスマスプレゼントに笑顔がこぼれており、コロナ禍の中でも楽しく人と関わるきっかけになっていました。

④千羽鶴プロジェクト（赤井 柳区）



新型コロナウイルス感染予防ため、柳区自治会主催の“ささえあいお茶会”とグループホーム日和主催の“日和・カフェ”に来ていた高齢者、約50人を対象に、自治会長やグループホームのスタッフが各戸訪問しながら、折鶴を折ってもらいました。最初は活気のなかった高齢者も何回かの訪問時には、表情が生き生きとしだし、「20枚では足りないよ」と催促されるようになりました。結果二千羽鶴になりそうと関係者もうれしい悲鳴です。柳区では、介護事業所と地域が連携して、地域のつながりを切らない取り組みをしています。

折った鶴は、感染症対策をしながら、グループホーム日和で展示会を開催して地域内のつながり作りをおこないました。

⑤地区課題について考える五味倉支え合い検討委員会

(大曲 五味倉地区)



五味倉地区自治会では、地区の課題について一緒に考える方を募集し、自治会役員や民生委員、保健推進員と趣旨に賛同された方、併せて9人で「支え合い検討委員会」を立ち上げました。

1回目の会議では、社会福祉協議会の生活支援コーディネーターが五味倉地区の高齢者の状況や地域支え合いの3つの柱（通いの場づくり、見守り活動、ちょっとした困り事への対応）について説明し勉強会を開催しました。

参加されている皆さんからは、「地域で元気に働いている高齢者のお話」や「若い世代との交流の難しさ」など、普段の地域生活について気がついた事、思っていること等について意見交換をしました。現在も定期的に情報交換をしながら、地域生活を豊かにする活動について検討しています。

⑥「困り事地域内で助け合い」塩入シニアの会（大塩 塩入地区）



「困り事地域内で助け合い」、塩入シニアの会が始動しました。

大塩の塩入地区で、地域住民の親睦・交流を図るとともに、住民同士の助け合い活動を通じ、住みやすい地域づくりを目的にした「塩入シニアの会」が令和2年5月に発足、20人の会員で具体的な活動計画を進めてきました。

塩入地区は高齢化率が45.4%と、大塩地域でもっとも高く、一部の高齢者からは、将来の地域生活に不安を抱く声が出ていました。こうした現状から、シニアの会を立ち上げ、会員相互の親睦と情報交換を図りながら、草刈りや地域内の清掃作業など身近な地域でボランティアをおこないつながりを作るとともに、地区住民からの依頼で庭の草刈りや清掃の軽作業を有償でもおこなう活動を始めました。

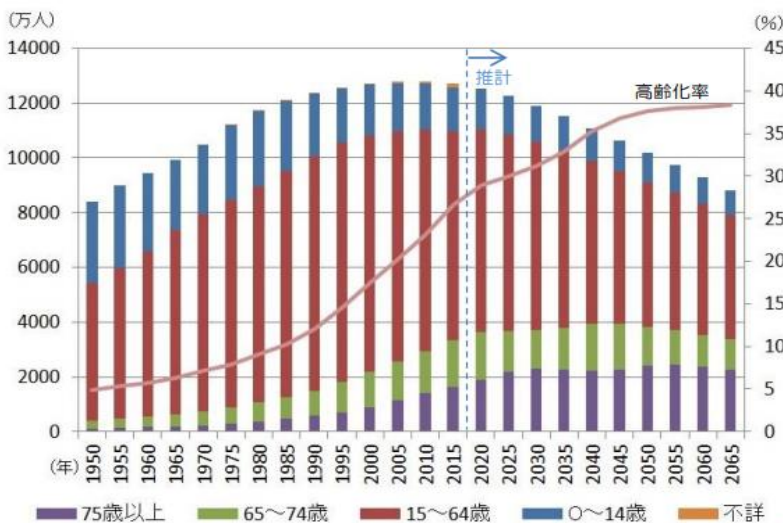
支え合いのまちづくりの必要性和生活支援体制整備事業

なぜ、今 支え合いのまちづくり？



○日本の高齢化の状況

高齢者人口は、「団塊の世代」が75歳以上となる2025年には3,677万人に達すると見込まれています。その後も高齢者人口は増加傾向が続き、2042年に3,935万人でピークを迎え、その後は減少に転じると推計されています。ところが、人口減少により2042年以降も高齢化率は上昇傾向にあり、2065年には38.4%に達して、国民の約2.6人にひとりが65歳以上の高齢者となる社会が到来すると推計されています。総人口に占める75歳以上の人口割合は、2065年には25.5%となり、約4人にひとりが75歳以上の高齢者となると推計されています。



超高齢社会がずっと続くんですね。
でも、高齢者が多いと
何が問題なの？



資料：2015年までは総務省「国勢調査」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口（平成29年推計）の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

○高齢化や人口減少により、様々な生活課題が生じてくることが予想されます。

例えば、介護サービスを考えると、需要の増加や人口減少による担い手不足等の問題から、必要なサービスが受けられなくなるかもしれません。また現在では、地域とのつながりが少なくなっている人も多く、それと併せて核家族化により高齢者の一人暮らしや高齢者のみの世帯が増加しています。高齢者世帯では、ゴミ出しや電球交換、精米など、多世代世帯に比べ地域生活を送る上でちょっとした困り事が多くあります。

○住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために

そのような高齢者の生活課題を、介護サービスだけで解決する事は、今後少子高齢化が進んでいく中では難しい事です。そのため、地域の中のつながりの延長で、ちょっとした困り事を「お互いさま」の支え合いで解決しながら、必要な時には介護サービスを使って暮らしていく事が重要になります。そのために、支え合いの（つながりある）まちづくりが大切になります。

つながり



支え合い

誰かとつながる事で、孤立の防止や困りごとの発見ができます。また、災害時にもスムーズに助け合いができます。



○地域支え合いは、高齢者だけの話？

支え合いを必要とするのは、高齢者に限ったことではありません。障がいのある方、介護をしている家族、子どもだけで留守番をしている家庭、子育てに悩むお父さんやお母さん、地域生活に戸惑う外国籍の方など、手助けを必要としている人がいます。また、誰もが何かのきっかけで手助けが必要となる立場になるかもしれません。

2025年問題は、2025年だけの問題では無く、「2025年から問題」とも言われています。その問題を、私たち地域生活をしていくみんなが、自分事として考え、「**楽しくもためになる、つながりのある地域作り**」をしてしていく事が大切です。

支え合いのまちづくりって、何をしたらいいの？



地域を知ろう

地域の集まりに参加するなどして、地域の状況を知ろう。
地域の困りごとや課題を「自分のこと」として考えてみよう。



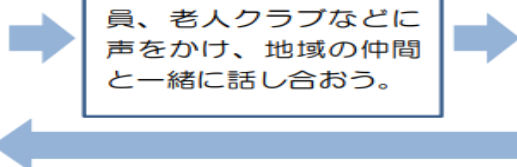
仲間で集まろう

地域の自治会や民生委員、老人クラブなどに声をかけ、地域の仲間と一緒に話し合おう。



できることから 取り組んでみよう

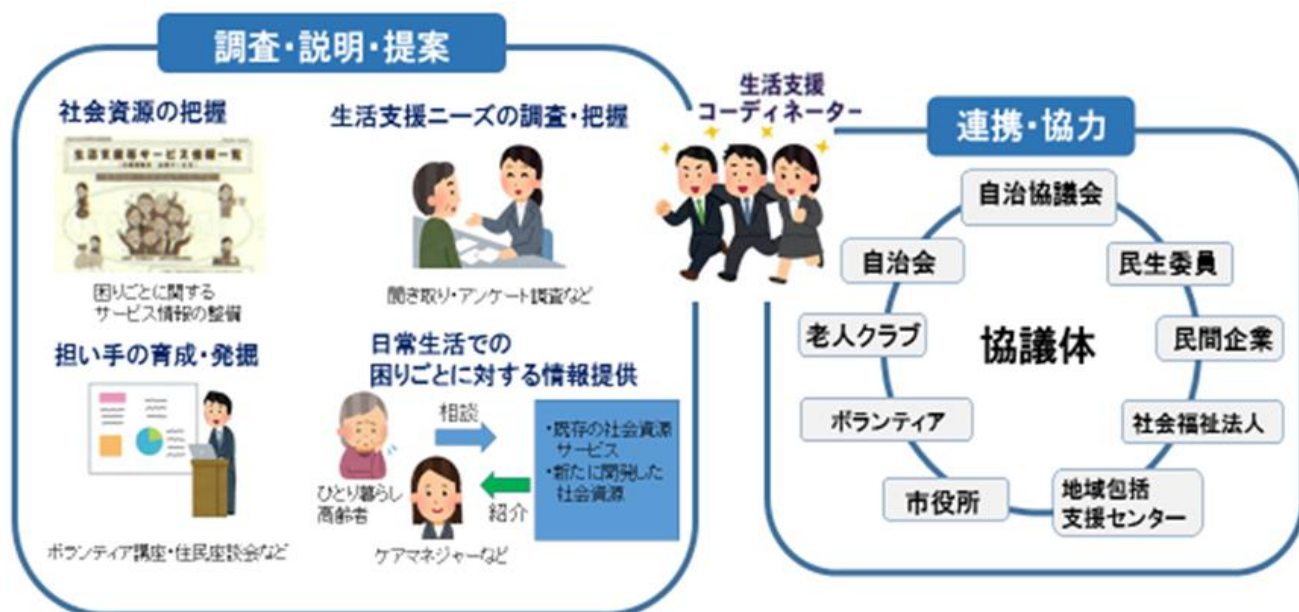
仲間と一緒に、できることから始めてみよう。



東松島市における生活支援体制整備事業

東松島市社会福祉協議会では、東松島市より「生活支援体制整備事業」を受託し、市全域に1名、日常生活圏域に2名、計3名の生活支援コーディネーターを配置し、下記の様な活動をしなから、**地域のみなさんと一緒に福祉での地域づくりを進めています。**

生活支援コーディネーターの具体的な活動



生活支援コーディネーターが地域の皆様と取り組んでいる活動

・通いの場づくり
介護予防や顔なじみの関係ができるように運動や体操、会食・お茶会、おしゃべりなど趣味や関心に合わせて地域のみなさんが気軽に集まれる場所をつくります。

・話し合いの場づくり
地域にどのような課題があるのか、情報交換や、解決するためには何が必要なのかなど話し合いができる場をつくり、地域で助け合い・支え合いができるような仕組みを考えていきます。

・地域での見守り活動の推進
高齢者の異変に早期に気付き、必要な支援につながる体制をつくりいつまでも地域で安心した生活が送れる仕組みをつくります。

・「ちょっとした困りごと」への対応創出
介護保険の対象にならない、ちょっとした困りごとに対応できる体制を整え、安心した生活が送れる仕組みをつくります。

支え合いの地域づくりについて、生活支援コーディネーターに
お気軽にお問合せ下さい！

【地域福祉活動に関するお問い合わせ】

社会福祉法人 東松島市社会福祉協議会 地域福祉課

〒981-0503

東松島市矢本字大溜 9-1（被災者サポートセンター内）

電話 0225-83-5001 FAX 0225-82-9813

担当 眞籠（市全域、矢本東、矢本西）、渡辺（小野、野蒜、宮戸）、本田（赤井、大曲、大塩）

令和 3 年 3 月発行